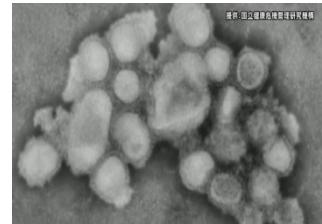


# \* \* \* 今 日 の 健 康 (12月) \* \* \*

## < インフルエンザA変異株：サブクレードK >

### <インフルエンザの患者発生状況>

昨年よりも6週間早く東京都の警報基準を上まわり、都内ではインフルエンザの流行が拡大しています。11月3日から11月9日（第45週）の定点医療機関からの患者報告数は29.03人です。保健所別の患者報告数が警報レベルにあるのは31保健所中12保健所で、当該保健所管内人口の割合は東京都全体の46.18%に達し、警報基準を超えていました。



2025年9月1日以降、都内の学校や社会福祉施設等で発生したインフルエンザ様疾患の集団感染事例は、11月9日までに1,616件報告されています。

例年インフルエンザは12月から1月にかけて流行していましたが、今シーズンは、日本を含めた北半球で例年より早く流行が始まり、インフルエンザA型の変異株「サブクレードK」が関与していると思われます。

今までに人類が遭遇していないパターンの変異のため、免疫抵抗性が低いために早い時期から流行していると考えられています。新型コロナのように、新種のウイルス感染症は若年層から広がって高齢者に波及するというパターンをとりやすいので、今後の動向には注意が必要です。

### <ウイルス変異の特徴>

サブクレードKはインフルエンザA型(H3N2)の変異株で、「J.2.4.1」系統に属しており、従来のウイルスとは少し異なる遺伝子の変異を持っています。2025年の南半球のインフルエンザシーズンの終息と、北半球のシーズンの開始とともに発生率が急増しています。

サブクレードKはウイルスの表面にある「ヘマグルチニン(HA)」というタンパク質のアミノ酸の置き換わりによって「免疫からの逃避能力」を獲得しています。これは144番目のアミノ酸がS144Nに変異し、ウイルスの表面に新たな「糖鎖」でコーティングする形状で、これを「グライカン・シールド(糖鎖の盾)」といいます。この楯により過去の感染やワクチンで獲得した抗体が認識しづらくなっていて「抗原ドリフト」が起きています。この変化が早期の流行を引き起こしている主要な要因ではないかと考えられています。

### <症状の特徴>

38度以上の発熱：85.2%、鼻水：80.3%、咳：77.0%、のどの痛み：60.7%、頭痛：57.4%、関節痛/体の痛み：9.8%、消化器症状：8.2%、息苦しさ：6.6%  
特徴的な症状は、発熱・鼻水・咳の頻度が非常に高く、ウイルス性胃腸炎の嘔吐や下痢などの消化器症が比較的多いことです。

### <インフルエンザワクチンの効果>

WHOの報告によると、今年の北半球用ワクチンで作られる抗体は、この「サブクレードK」に対して反応性が低下しており、ワクチンの型がぴったり合っているとは言いにくい状況ですが、イギリスで実際の患者データを分析した最新の研究(2025年11月発表)では、ワクチンの効果は年齢によって大きく異なり、大人は感染を完全には防げないかもしれないが、重症化リスクはある程度下げられる。子どもたちにとっては、依然としてもっとも効果の高い防御手段の1つである。と報告されています。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861  
天文台通り もみじ山公園バス停裏